

第1日目まとめ

松本光朗センター長（森林総合研究所 REDD 研究開発センター）

**Day 1 - 1**

- Opening Session
  - Back ground and objectives
- Session 1
  - Results of COP19 and the Warsaw framework for REDD+
- Session 2
  - Presentations on SFM and REDD+ were given from three viewpoints of practice, science and society.
  - SFM and REDD+ are related tightly. Practice and experiences of SFM can enhance REDD+ goals, and also framework and activities of REDD+ can enhance SFM goals.
  - Science on ecosystem is important to understand and manage SFM and REDD+, and socio-economic consideration including participation of local people and communities is required for implementing them at local levels.

本日のセミナーでは、素晴らしい講演と深みのある熱心な議論が行われ、非常に有意義で、多くのことを学ぶことができた。過去のセミナーでは計画や戦略、将来のコンセプトといった話題が中心であったが、今回はリアリティーや経験に基づく講演が多かった。

オープニングセッションでは、森林総合研究所の鈴木理事長、林野庁の宮原次長、国際連合大学の武内上級副学長、そして今回の共同開催者である FAO の Mr. Mansur から開会挨拶をいただいた。特に Mr. Mansur からは、彼自身の日頃からの興味関心やチャレンジを踏まえて、今回のセミナーにおいて持続可能な森林経営と REDD プラスの関係に注目した背景について話していただいた。

セッション1では、国連気候変動枠組条約事務局 Ms. Wong から、最新の国際動向として COP19（第19回気候変動枠組条約締約国会議）の成果である「REDD プラスのためのワルシャワ枠組み」の内容について紹介していただいた。COP の決定文書は非常に読みにくく、どこに何が書いてあるかよく分からない部分もある。しかし、彼女の講演では、キーセンテンスやキーワードに焦点が当てられ、詳細かつ分かりやすい解説であった。

セッション2では、具体的な実践（実証活動や経験）に関する講演、科学の視点からの講演、そして社会やローカルコミュニティの視点からの講演と、それぞれ全く違う角度からの問題提起を頂いた。3人の講演の中で、持続可能な森林経営と REDD プラスはお互い非常に密接に関係しているものだという認識は共通しており、これまで実践されてきた持続可能な森林経営は REDD プラスの取り組みを強化するものであり、同様に、REDD プラスのフレームワークや活動は持続可能な森林経営の取り組みを強化するものであるという、双方向の関係性が強調された。また、カナダ 天然資源省林業局 Dr. Thompson は、生態系に関する科学的な理解が持続可能な森林経営や REDD プラスの理解を助け、それらを実践していくために必要であるということを強調した。東京大学大学院井上教授は、社会経済的な考慮、特に地域住民や地域社会の参加がローカルレベルでの実践活動において非常に重要であることを強調した。

### Day 1 - 2

- Session 3
  - Presentations in Session 3 highlighted importance of data/information, especially monitoring for both SFM and REDD+.
  - Also experiences of national level monitoring, new technics of remote sensing for forest monitoring and new methodologies for estimation of carbon benefits were shown.
  - These activities will facilitate the readiness phase in host countries.
- Session 4
  - Presentation in Session 4 reported experiences on SFM and REDD+ in India and Zambia.
  - India challenges to promote strong forest policies and implementation for SFM and REDD+. Zambia promoted REDD+ activities in including drivers, MRV, governance and roadmap towards National REDD Strategy.
  - Lessons learnt from the experiences were shown in these countries.

セッション 3 では、データや情報、並びにモニタリングの重要性が強調された。FAO の Dr. Sanz-Sanchez からは国レベルのモニタリングに基づく講演、森林総合研究所の平田室長からカンボジア等で得られた非常に重要な示唆を含む経験や、リモートセンシングを用いた技術の紹介がなされた。そして Ecoexistence - Robledo Abad Althaus の Dr. Robledo からは sGreen という新しい手法の紹介があった。こうしたデータや情報の収集活動は、経験を積むことで蓄積されていくものであり、特に途上国でのフェーズ 1 の活動や準備活動において非常に効果的だと言えるだろう。

セッション 4 は、まさに現場からの報告であった。インドとザンビアでの持続可能な森林経営や REDD プラスに関する活動・経験が紹介された。インドにおける、非常に強力な森林政策によって持続可能な森林経営と REDD プラスを同時に実行・推進していく試みはとても印象的であった。今後の展開に期待がもてる取り組みである。また、ザンビアでは、ドライバー分析や MRV、ガバナンスといった REDD プラスの活動の成果を踏まえて国家 REDD 戦略につなげていくためのロードマップを開発したという報告があった。

もちろん、森林の状況や森林減少の状況は国によって大きく異なるものである。しかしながら、実際の活動から得られた教訓を蓄積し、データベース化していくことが、今後他の国で REDD プラス活動を推進する際に非常に有用であろう。